

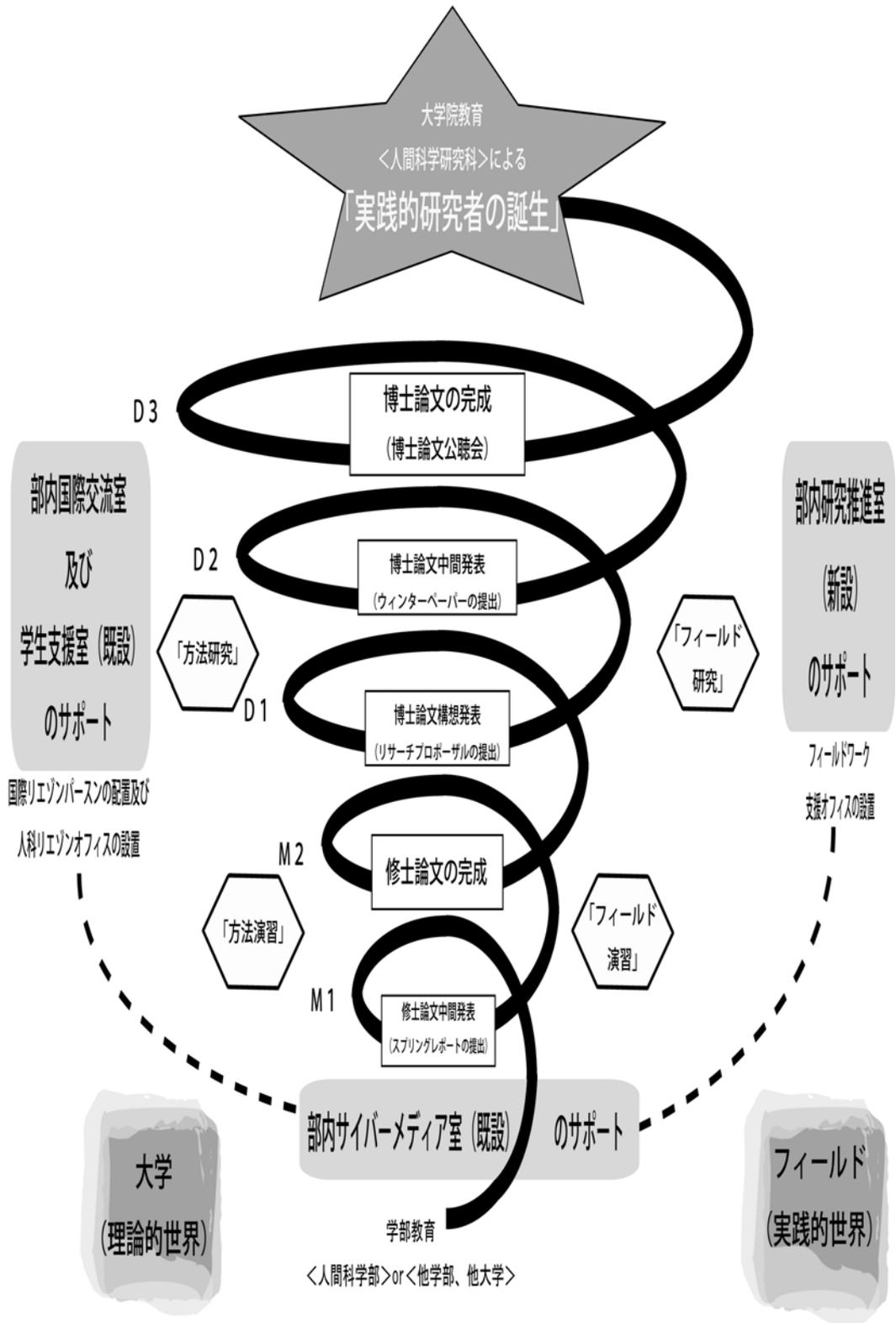
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	大阪大学	整理番号	a016
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	「実践的研究者」養成をめざす人間科学教育(フィールド経験と理論的世界との統合)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 心理学、教育学、社会学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (実験心理学、臨床心理学、教育学、社会学、地域研究)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 <small>([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)</small>	(主たる研究科・専攻名) 人間科学研究科人間科学専攻[博士前期課程・後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 小泉 潤二	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>大阪大学の人間科学研究科は創立以来、日本の「人間科学」のパイオニアとしての中心的役割を担ってきた。現在の人間科学研究科からは、大阪大学が実施する21世紀COEプログラムのうち3つに事業推進担当者が参加している——「インターフェイスの人文科学」(分野:人文科学)、「アンケート調査と実験による行動マクロ動学」(分野:社会科学)、「フロンティアバイオデンティストリーの創生」(分野:医学系)。このように人文科学、社会科学、自然科学の多様な分野に先進的研究者を提供できるところに、人間科学研究科が広い学際性のもとで文理融合の理念を実現していることが示されている。人間科学研究科は、大阪大学が文理融合的で学際的な教育研究プログラムを推進していくための、重要なハブの一つとして位置づけられる。</p> <p>「人間を科学する」多様な基礎研究のもとで、人間科学研究科は既に多くの実践的研究者を養成してきたが、本申請の教育プログラムを実施することにより、新しい実践的研究者の養成機能を大幅に強化しようとしている。そのために人間科学研究科は独自の予算措置を行う予定であるが、本学全体としても人間科学研究科のこの計画を積極的に支援し、新しい融合領域での教育研究活動が実現されることを期待するものである。</p>			

機 関 名	大阪大学	整理番号	a016
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>「人間科学」(Human Sciences)という名称を冠する学部が、日本ではじめて大阪大学に設置されたのは1972年のことである。その後間もなく大学院人間科学研究科も設置された。文理融合型・学際型の実践的教育研究をめざす本研究科・学部では、伝統的に行動学・教育学・社会学を3本の柱としており、そこに近年ボランティア人間科学(共生学)が加わった。書物や論文を通じた研究や実験室での研究はもちろん、大学の外で人が生き実際に行動する現場(フィールド)での調査や実践・臨床活動を重視し、それを大学での教育研究にフィードバックしている。2005年度現在、累計で修士848人、博士237名を輩出している。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本研究科では、「人間を研究対象として、現実の人間の行動、心理、社会などをさまざまな側面から科学的に分析・評価するとともに、人間という存在を理解し、人間が人間らしく生きていける仕組みをつくることを目指した研究を行う」ことを、アドミッション・ポリシーに掲げている。</p> <p>この理念に即して、本研究科が養成しようとしている人材を「実践的研究者」(practical researcher)という言葉で表現したい。多様な人間科学の諸分野を背景に、学際的な接触・交流・融合に新しい可能性を求め、現場・フィールドに根ざした個性的・創造的な研究を進める人材が「実践的研究者」である。創設以来本研究科では、すでにさまざまな領域で、現場・フィールドに根ざした研究者を多数輩出してきた。</p> <p>その実績のうえに、現行のカリキュラムを基礎としつつ、それに改良を加え、以下の特徴を備えた「実践的研究者養成」のための大学院教育プログラムを整備する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①本研究科の基本的特徴である「文理融合」「学際性」を大学院生が享受できる柔軟な教育課程編成。 ②人間科学に欠かすことのできない「フィールドワーク」「現場体験」「臨床活動」のカリキュラム化(「フィールド演習」「フィールド研究」)。 ③人間科学の方法の基礎をなす研究スキル・態度、さらには研究計画の立て方や論文の書き方を具体的に習得する科目の設置(「人間科学方法演習」「人間科学方法研究」)。 ④研究活動を積極的に展開できる資質養成のための支援体制の充実(「研究推進室」の設置と現存の「国際交流室」、「学生支援室」の拡充)。 ⑤5年間の研究活動を博士論文の完成に結びつけるための研究指導の体系化(「スプリングレポート」「ウインターペーパー」等の設置)。 			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	大阪大学	整理番号	a016
<p data-bbox="164 197 588 230">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="164 293 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="188 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="188 533 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="188 629 1227 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="164 678 1430 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 916 635 949">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 965 1430 1285" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 965 1430 1095">・実践的研究者の養成という教育プログラムの目的は、今日的課題であり、フィールド活動を科目化し、螺旋型履修プロセスとして理論学習との統合を図っている点は優れている。また、フィールドワークに対して、充実した支援体制を準備しているところに特徴がある。 <li data-bbox="172 1111 1430 1285">・ただし、各分野（心理、教育、社会、地域研究）間の有機的連関を実現するための指導体制の整備の必要性、また、この構想を実現するためには支援職員の確保とスタッフ・ディベロップメント（教職員を対象とした管理運営や、教育・研究支援の資質向上のための組織的取組）が課題となる点に留意する必要がある。 			